難波英夫（なんばひでお）　社會運動家、歌人。（明治）二十一年一月五日岡山縣川上郡成羽生れ、昭和四十七年二月七日歿（一八八一―九七二）。筆名熊谷丑太。上京して京北中學校入學（四年中退）。大正七年『東京時事新報』記者、十年社會部長、また日本平等會設立に參加し、翌年全國水平社創立の宣傳の場とする。十二年辭職して『ワシラノシンブン』（のち『解放新聞』と改題）を創刊。更に新民衆劇團文藝部員となり、「高野の義人」等を創作。次で東京毎夕新聞社編輯局長も、昭和一年退社してマルクス書房を興し、左翼出版物を弟孝夫と共に刊行。翌年日本共産黨に入黨。三・一五事件（黨員一齊檢擧）では少聯に亡命。四年治安維持法違反で起訴せられた。戰後は東京都部落問題研究會會長、日本國民救援會會長を務め、この間（かん）松川事件、白鳥事件、狭山事件等の救援活動に從事。一方短歌を能くし、新日本歌人協會會員。

著書に『農住村報告書』（再版・昭和十二年五月）、十五日國民思想研究所「國民思想パンフレット」）等の他、刊行委員に名を列ねた『解放のいしずえ』（「解放のいしずえ」刊行委員会編、昭和二十）年十月十日解放運動犠牲者合葬追悼会世話人会）がある。『難波英夫追悼集』（昭和四十七年六月二十日日本国民救援会）刊。